

別紙1-1

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 中村 紘子

論 文 題 目

主観確率に基づく条件文の解釈

(Interpretation of conditional statements based on subjective probability)

論文審査担当者

主 査 名古屋大学大学院情報学研究科 教 授 川口 潤

副 査 名古屋大学大学院情報学研究科 教 授 唐沢 穰

副 査 名古屋大学大学院情報学研究科 准教授 北神慎司

副 査 大阪市立大学文学研究科 教 授 山 祐嗣

## 論文審査の結果の要旨

### 別紙 1 - 2

本論文は、人が日常生活においてどのような情報をもとに条件文の真偽を判断しているかを、思考心理学の観点から明らかにしようとするものである。具体的には、どのようなデフォルトの解釈に基づいて条件文が解釈されるかを実験的に検討した。

第 1 章では条件推論研究の歴史的背景を概観し、本研究の目的と構成を述べた。第 2 章では、命題は真か偽かの二値のみを取るとする論理体系である命題論理と、命題論理に基づく推論理論であるメンタルモデル説の説明を行った。メンタルモデル説は、人が命題論理の真理値に従った心的表象を構築しすると考える理論であるが、現実の推論場面では認知容量の不足により、論理的に誤った推論をすると考えられる。第 3 章では、主観確率に基づく推論理論の解説を行い、本研究の目的を説明した。この確率説では、人の推論は主観的確率である信念強度に基づいて命題の真偽を判断し、信念強度を更新するために情報を利用する過程であると考えられる。

第 4 章から第 6 章では、人が条件付き確率をデフォルト解釈として条件文の真偽を判断していることを、複数の実験によって明らかにした。第 4 章では Wason 選択課題を用いて検討した。第 5 章では直感的論理の実験パラダイムを用いて、直感的で認知負荷の低い条件文の解釈を検討した。その結果、直感的な条件文の真理値の好意度評定パターンは、条件付き確率に基づくモデルで最も良く予測されることが示された。これらの結果は、意思決定が直感的過程においてヒューリスティック反応と規範的反応の両方が生じるという考え方を支持するものであった。第 6 章では、条件文のデフォルトの解釈に関する文化差を検討し、因果条件文の内容や文脈の利用が文化によって異なることを明らかにした。

第 7 章では本研究で得られた結果、すなわち条件文の解釈過程は確率的アプローチによってうまく説明できること、条件文のデフォルト解釈は条件付き確率であること、ただし条件文の背後の文脈利用において文化差が見られることをもとに、研究の限界と今後の展望を議論した。

本研究は以下の点が評価できる。第一に、人間の推論過程が、確率論的アプローチによって説明できることを精緻な心理実験によって明らかにしたこと、第二に、基礎的過程は確率論的判断で説明できるものの、背景文脈利用に関して文化による違いが見られることを明確にした点である。審査委員からは、文化を所与のものとして捉えるのか構成論的に捉えるのかなどの質問がなされたが、それらは今後の課題として認識されており、本研究の知見は条件推論過程の解明に大きく貢献する研究として重要であることが議論された。

以上のように、本研究は人の推論メカニズムを複数の実験および緻密なモデルの検討によって明らかにしたという点で心理学の発展に大きく貢献した。よって本論文の提出者中村紘子君は博士（心理学）の学位を授与される資格があるものと判定した。